

| | | |
|---------------------------|--|--|
| <p>中長期目標 (学校ビジョン)</p> | <p>(1) 道徳教育の充実 ・高校生として望ましい規範意識、生活習慣を確立する。 ・自己肯定感を高めるとともに、他者に対する思いやりなど、周囲と豊かな人間関係を構築することのできる豊かな心を育む。</p> <p>(2) キャリア教育の充実 ・社会的問題に関心を持ち、社会の一員であることを自覚させる。 ・探究活動をおして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。 ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。</p> <p>(3) 高い志を有し、学ぶ意欲を向上 ・将来の生き方を考えさせることで主体的に学ぶ姿勢を涵養するとともに、社会問題の解決に向けて必要となる確かな学力を育成する。 ・授業をおして論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を高める。</p> | <p>今年度の重点目標</p> <p>(1) 規範意識、良き生活習慣の確立 (2) キャリア教育の充実 (3) 主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上 (4) 情報収集、情報発信の充実</p> |
|---------------------------|--|--|

| 年度当初 | | | | 評価結果(3月) | | | |
|----------------|-----------------------------|---|---|---|---|--------|--|
| 評価項目 | 具体的項目 | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 来年度への改善方策 |
| 規範意識、よき生活習慣の確立 | ①さわやかな挨拶ができる | ◎S3、S2生は校内で自分から挨拶ができていた生徒が多い。 ○期の挨拶運動に生徒会執行部の生徒も参加した。 △挨拶の声が小さかったり、機械的な挨拶が見られることがある。また、関わりのない教員や外部からの来訪者には挨拶できない生徒がいる。 | ①普段の生活の中で、自然に自分から心のこもった挨拶ができる。また、相手の状況に応じた適切なコミュニケーションがとれる。 | ①-A 挨拶することの意味をSHR、授業、部活動、校外研修等さまざまな場面を通して生徒に伝え、学校全体でより意識を上げる。 ①-I 教員から率先して挨拶を行い、互いの挨拶を習慣化するとともに挨拶できていない生徒に対する声かけを全職員が意識して行う。 ①-U 生徒会執行部を中心に、生徒同士で挨拶しあう機会を増やす。 | A○ 教師が、HRや集会で挨拶することの意味等を継続して伝えた。授業や集会など校内での挨拶は多くの生徒ができており、ステージが上がることになった。校外で自分から挨拶ができる生徒はまだ少ない。 I◎ 教員から率先して挨拶を行った。 U○ 生徒会執行部による挨拶運動を2学期に7日間実施した。S1生の挨拶が良くなるなど効果があった。 | B | □生徒会執行部を中心とした生徒同士で挨拶しあう活動をさらに増やす。 ・集会等でのさわやかな挨拶の実践 ・朝の挨拶運動の機会を増やす。 □挨拶だけでなく、社会性や規範意識、コミュニケーション力を身につけさせる取組を行う。 |
| | ②時間を意識し、今、何をすべきかを考えて行動する | 【学校生活】 ○落ち着いた生活をしている。時間を意識して行動できる生徒が増加している。 △チャイムが鳴っても、授業の準備ができていない生徒がみられる。 【家庭生活】 ◎遅刻回数は少なく、一人年平均約1回であった。 ※昨年度【遅刻回数:459回】【一人あたり1.07回】 ○ほとんどの生徒は余裕を持って登校しているが、遅刻者や始業間際に登校する生徒は固定化している。 △4点固定、携帯の使用法などを含めた生活リズムの固定化については、保護者説明会などで繰り返しお願いしているが、十分とはいえない。 | ②-1 時間を意識して行動することができ、授業の準備、集会の集合など時間前には完了している。 ②-2 遅刻をしないなど、時間を守ることの大切さを認識し、規則正しい生活をおくることができる。 【目標】 遅刻回数:1人年平均1回以下 ②-3 4点固定を日常的に実施するなど、家庭でも生活リズムが整い、学習習慣が確立している | ②-1-A 学校生活時間内で常に時間を意識させ、余裕を持った行動が出来るよう、継続した声かけを行う。 ②-1-I 教員が出来る限り早く教室や集会場所に行き、生徒の活動を促す。 ②-2-A 遅刻回数など、生徒状況を常に把握し、保護者との連携を密にして、タイムラグのない指導を心がける。 ②-2-I 遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。 ②-3 4点固定の定着を図るため、「生活の軌跡」等で生徒の生活を検証し、面談指導する。 | 1-A○ チャイムが鳴った時点で授業の準備ができていた生徒が多くなった。 1-I◎ 集会等の集合は時間前にはほぼ完了しており、教員が促すまでもなく、執行部を中心とした生徒によって主体的に整列・点呼ができていた。 【遅刻回数】 ・延べ年間463回、一人あたり1.20回 ・目標は達成できなかったが、ほとんどの生徒が遅刻せず登校している。特に、S1は声かけを徹底した結果、遅刻総回数は79回と少なかった。 2-A○ 保護者への連絡を密にして、保護者と連携した指導を行った。 2-I○ 遅刻する生徒は少ない。多遅刻者が固定されており、声かけ、家庭連絡を密にして指導を継続した。 3△ 部活動後の帰宅が遅く、家庭学習不足の生徒がいる。生徒の面談指導の時間の確保に課題があった。 | B B | □生徒会執行部を中心とした準備や点呼を継続する。 □「遅刻ゼロの日」を設定し、自転車置き場や生徒玄関に立って早くよう促す。 □生活の軌跡を題材に個別面談を重ねる。 □面談時間を確保できるよう業務改善をすすめる。 |
| キャリア教育の充実 | ①チャレンジグループ活動の計画的な実施、及び内容の充実 | 【生徒の実態】 ○社会人講師の講演により、生徒の進路意識が高まった。 ○個人研究に対するアドバイスを行うことで、生徒の意欲が高まり、活動が充実してきた。 ○フィールドワークで実際に現場を訪れて調査する生徒も増えた。 △グループ全体として地域に向かう活動は少なく、単発的なものもあり、生徒の主体的な取組になっているとは言えない。 △社会に対する関心が希薄なため、自ら進んで社会と関わろうとせず、必要な知識が不足している。 【教員】 ○ステージ主任の連携が可能であり、年度をまたいだ計画性、継続性のある取組になりつつある。 △チャレンジグループ活動が体系化されていないため、マンパワーに頼っている。 △教員にチャレンジグループ活動に取組むための余裕がない。 | ①-1 社会に対して関心を持ち、自ら気になる課題、解決の探究テーマを設定してフィールドワークなど適切な調査活動や情報収集を行ない、論理的・合理的な結論を出すことができる。 ①-2 チャレンジグループ活動をおして、自らの進路目標を明確にし、将来、社会に貢献しようとする態度を身につける。 | ①-1-A チャレンジグループ活動の情報収集し、具体的な活動計画を立てさせる。 ①-1-I 個人探究の具体的なテーマを早期に設定し、長期休業中を利用した活動を計画させる。 ①-1-U チャレンジノートを活用し、内容の充実や記録の工夫を図る。 ①-1-E 探究テーマに応じた、調査方法、情報収集の仕方について、適宜指導し、完成度の高いレポート作成に向けた工夫を行う。 ①-2 上級学校における学びや職業の選択と結びつけ、将来につなげる取組とする。 | 1-A○ 校内外の研修や講演会など計画的に実施することができた。S3生徒個々の活動計画の立案もほぼ計画通りできた。 1-I○ S2は2月調査明けから本格的に個人研究を始めることができた。 1-U◎ 本年度採用したチャレンジノートは利用しやすく、記録の保存として大いに活用できた。 1-E○ 各グループ担当者による指導だけでなく、外部講師を招いて調査・研究の方法についての講演を聞いた。S1の新聞活用活動では、生徒は積極的に取り組んだ。 2○ チャレンジグループ活動で取り組んだ研究テーマと結びついた進路を選択した生徒の割合は約8割である。S3の研究発表会が7月になり、受験態勢への切り替えが早くできた。 | B | □夏休み前のS3研究発表会に向けて、個人研究の始動を早め、計画的に実施する。 □生徒のやる気を持続できるよう、生徒の将来の夢や進路志向により近づけたテーマ設定を行い、チャレンジグループ活動をさらに充実させる。 |
| | ②図書活用・知のオアシス | 【図書館活用・知のオアシス】 ◎図書館はS3生のチャレンジ活動での利用は多い。 ○フィールドワーク関西の事前活動として図書館を活用して情報収集し見学の視点を明確にできた。 ○県立図書館・博物館の見学を実施し、進路や文化活動の視野を広げた。 △知のオアシスの活用がなされていない。 | ①-5 生徒が自主的に図書館を利用し、読書・探究活動に取り組んでいる。 ①-6 チャレンジのテーマに沿って、図書館活用がされている。 ①-7 チャレンジグループ活動の展示など、知のオアシスが有効に活用されている。 | ①-5-A 展示の工夫など、新聞や図書館の蔵書の有効活用を図る。 ①-5-I 授業での図書館活用や図書館企画を推進する。 ①-6 他図書館との連携など、情報源の有効活用について指導する。 ①-7-A チャレンジの各グループ、ステージを越えて内容を共有できるよう展示スペースを設ける。 ①-7-I 成果報告書や研究発表作品の展示、ポスターセッション等を行う。 | 5-A◎ 教科の関連図書を担当教諭の写真・インタビューとともに展示した「教科大好きシリーズ」を新たに行ない、好評を博した。 図書館での生徒の一人あたり貸出冊数は14.5冊(平成28年4月～29年2月、昨年同期:14.9冊)であり、多くの図書を活用している。 5-I△ 授業における図書館利用は、必要な図書の準備等の関わりができたが、利用頻度は教員による偏りがある。 6○ チャレンジグループ活動・小論文指導において、県立図書館等の図書館所蔵の書籍のレファレンス・貸出を行った。 7-A◎ チャレンジグループ活動時に本の貸し出しが増加するなど、図書館の有効活用ができていた。 7-I○ S3生のチャレンジグループ活動での研究発表の内容を「知のオアシス」前で掲示・紹介した。 | B | □図書委員会を活用し、より効果的な図書館展示を工夫する。 □フィールドワーク関西など生徒が取組む各行事の情報収集に努め、行事のさらなる充実を図る。 |
| | ③フィールドワーク関西 | ○直接体験したことで、その後の学習意欲が高まった。 △研修先の選定が難しかった。 | ①-8 見学や体験を通して、社会や自らの関心に対する理解を深め、その後の学習意欲や進路意識を高める。 | ①-8-A 各グループで研修・体験させる目的・内容を明確に設定し、研修先について早期選定及び探究を行う。 ①-8-I 有意義な研修先の引継ぎや、新しい見学先の開発に努め、次のステージに継続させる。 ①-8-U フィールドワーク関西で得た情報や課題を個人研究につなげる。 | 8-A◎ 生徒アンケートでは、研修先の選定や事前学習等についてはどの項目も8～9割以上の生徒がよかったと評価している。研修の3日間については肯定的な評価をしている生徒が98%を越えている。 8-I◎ 報告会を実施し、各グループが工夫を凝らした発表を行った。S1生も興味深く聞いていた。S3生は、報告会までに時間がとれなかったが、生徒は主体的に発表準備に取りかかり、評価できる内容の報告会をすることができた。 8-U○ S2の個人研究については、テーマの設定を含め現在進行中である。 | A | □研修先の選定を早めに行い、内容の検討する期間を十分にとるようにする。 □各グループで、研修先の決定までの過程について引継ぎを行い、次年度へのスムーズな移行を図る。 |

| 評価項目 | 具体的項目 | 現 状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 来年度への改善方策 |
|------|-----------------------------------|---|---|---|--|----|---|
| | ②地域のことを知り、将来、地域貢献及び社会貢献の意識を向上させる。 | <p>【ボランティア活動】</p> <p>◎本年度も多くの生徒がボランティアに積極的に参加した。ボランティアに参加する生徒は、その活動をおして何かを学ぼうとする姿勢が感じられる。</p> <p>○図書館展示は好評であり、生徒は地域の理解を深めた。</p> <p>○ボランティアに参加することで、社会と関わり、あいさつ等、大人としてのマナーを身につけつつある。</p> <p>【生徒会活動(地域を盛り上げる)】</p> <p>◎生徒会執行部の生徒が挨拶運動に参加した。</p> <p>◎西高祭をはじめ生徒会活動は、多くの生徒が計画的、主体的に取り組めた。</p> <p>○生徒会行事の企画・運営は、生徒が主体的にできるようになってきた。</p> <p>△地域の人へのアピールがまだ不十分である。</p> | <p>②-1 ボランティア活動やシンポジウム等に積極的に参加し、自分と地域社会とを結びつけようとしている。</p> <p>②-2 ボランティア参加の経験を生活に活かしている。(挨拶、清掃、時間意識等)</p> <p>②-3 生徒会活動(西高祭・球技大会等)を通して、生徒が何事にも主体的、かつ協力して取り組んでいる。</p> <p>②-4 地域から評価される生徒会活動の実施</p> <p>②-5 生徒会活動を通して将来への社会貢献・地域貢献意識も高まり、進路実現に向けた意欲と結びついている。</p> | <p>②-1ア 各ステージやホームでボランティア体験報告を行うなど、事後指導を充実させる。</p> <p>②-1-イ S3の活動報告をS1、S2にも聞かせることで、早期からのボランティア活動への参加を意識づける。</p> <p>②-2 チャレンジグループでのボランティア活動など、各種ボランティア活動への参加を奨励する。</p> <p>②-3 生徒会活動をS2生を中心に運営させて、S3生にサポートさせることで、行事を企画・運営するノウハウを下級生に受け継がれるように工夫する。</p> <p>②-4ア 地域との連携活動でどんなことができるのか、先進校の例などを基に自分たちで独自の方法を考えさせる。</p> <p>②-4-イ 長期休業等を利用して、他校の視察を実施する。</p> <p>②-5 生徒会活動や部活動での経験を、自分の進路希望と関連させて、進路実現を図る。</p> | <p>【ボランティア参加人数】</p> <p>・延べ人数は、1学期140人、2学期21人</p> <p>1-ア・イ△ 体験報告など事後指導が不十分であった。</p> <p>2△ ボランティア活動に参加する生徒の延べ人数は多いが、参加する生徒が部活動に所属していない生徒などに限られ、固定されている。2学期は地震の影響等もあり、参加者が少なかった。</p> <p>3◎ 生徒会活動では、生徒が主体的に活動するシステムが確立し、生徒会執行部を中心に頑張っている。</p> <p>4-ア○ 地域との連携を意識し、西高祭では地域の方にも喜んでもらえる企画を工夫することができた。来場者の数も例年以上に増えた。推定1300人</p> <p>4-イ◎ 岡山操山高校生徒と授業や生徒会のメンバーと交流をおしてとても良い刺激を受けた。</p> <p>5◎ 入試や面接において、生徒会活動や部活動での経験を活かして、進路実現を目指した生徒が多い。</p> | C | <p>□ボランティア講演会を実施し、生徒のボランティアへの意識向上をはかる。</p> <p>□ボランティア活動の情報を職員全体で共有し、チャレンジグループ活動やHR、集会などでボランティア活動を奨励する。</p> <p>□S1生は必ず1回ボランティア活動を行い、報告会を実施する。</p> <p>□現在の活発な生徒会活動を今後も継続するために、生徒会行事や活動の準備・運営についてマニュアル化、デジタル化を進める。</p> |
| | ①授業規律の確保 | <p>【生徒の取組】</p> <p>○生徒が主体的に授業に向かう姿勢が向上している。</p> <p>△学習習慣の定着は生徒による個人差が大きい。</p> <p>【家庭学習時間2時間以上】 S1:60.0% S2:22.0%</p> <p>【家庭学習時間5時間以上】 S3:23.9%(ただし、7月以降)</p> <p>△【課題提出状況】 90.7%(国、数、英、理、地公、保健)</p> <p>△学習時間はS1が目標時間を達成した時期も多いが、内訳をみると個々にも教科にも偏りがある。</p> <p>△部活動に多くの時間を費やしているため、課題・小テストの準備と、プラスαの活動ができていない。</p> | <p>①-1 学習目標を明確に持ち、積極的に学習している。</p> <p>①-2 自ら積極的に発言するのが当たり前前の雰囲気がある。</p> <p>①-3 授業を中心に予習・復習を行ない、一定の家庭学習時間が確保できている。</p> <p>【家庭学習時間目標】</p> <p>S1:2.2時間以上の生徒が70%以上</p> <p>S3:総体後5時間以上の生徒が50%以上</p> <p>①-4 課題の意味を理解し、課題提出状況が95%以上となっている。</p> | <p>①-1 年度初めに学ぶ目的を明示するとともに、各授業においては単元観と単元目標を提示する。</p> <p>①-2 聞かされただけでなく、アウトプットの機会も取り入れた授業を工夫する。</p> <p>①-3ア「生活の軌跡」を活用し、面談を通して家庭での学習習慣の指導を行なう。</p> <p>①-3-イ 授業時に予習のチェックを行う。</p> <p>①-4 課題提出は生徒個々の理解の把握であることを教員が共通認識し、「出した出さない」の評価にとどめない。</p> | <p>【家庭学習時間】</p> <p>S1(2時間以上)37人(31%)</p> <p>S2(2時間以上)88人(73%)</p> <p>S3(5時間以上)77人(52%)</p> <p>【課題提出状況】</p> <p>S1 88%</p> <p>S2 96%</p> <p>10 十分とは言えないが、授業を大切にしている生徒の意識が高まり、目標を設定して主体的に取り組む土壌ができてきた。</p> <p>20 アウトプットの機会も取り入れた授業を工夫する場面が増えた。</p> <p>3-ア○ 学習時間は、S1以外は目標を達成した。</p> <p>3-イ○ 授業状況から鑑みて、予習・授業・復習の良いサイクルが醸成されてきている。</p> <p>40 課題提出状況(英・数・国)は、教科によりバラツキが有るが、S2は目標を達成した。</p> | B | <p>□定期テストや模試及び小テスト毎にチェックをし、生徒が当たり前前に家庭学習・課題に取り組めるように指導する。</p> <p>□課題提出の状況も概ね良好であるが、引き続き未提出者を減す、課題内容チェックなどの取組を継続する。</p> |
| | ②思考力、判断力、表現力を高める授業の工夫 | <p>【授業改善】</p> <p>○生徒に発言を促したり、論述する授業を心がけており、一定の成果は上がってきている。</p> <p>○生徒自身が考える機会を増やすなど、授業に対する取組みは年々向上しているが、△指示がないと動けない生徒が多い。</p> <p>○生徒が発言したり、表現することへの抵抗は少なくなっている。</p> <p>△校内授業研究会への参加者は多いが、先進校視察や研修会への参加者が少ない。</p> | <p>②-1 生徒が目標を持って、主体的に授業に取り組む、論理的に自分の考えを表現することができている。</p> <p>②-2 学びの過程を大切にしたい学びあいが、どの授業においても日常的に行なわれている。</p> | <p>②-1ア 授業で意識的に表現活動を取り入れたり、記述・論述する機会を増やし、論理的に思考する習慣を身につけさせる。</p> <p>②-1-イ 研究テーマを明確にして校内研究授業を年2回実施し、より充実した授業の実践に取り組む。</p> <p>②-1-ウ テストの出題も、思考を促すような問となるように工夫する。</p> <p>②-2ア 教科会の充実、校内研究授業の継続及び充実、先進校視察を通して授業研究を充実させる。</p> <p>②-2-イ 講義式の授業ではなく、アクティブラーニングの手法を工夫した授業改革を進める。</p> <p>②-2-ウ 発問を工夫し、生徒それぞれが自分の意見を言えるよう努力する。</p> | <p>1-ア、2-イ・ウ○ 講師として大学教授を招いて授業研究会を行い、アクティブラーニングの視点による工夫がなされるようになった。研修したことを授業で活用し、生徒に還元しつつある。</p> <p>1-イ◎ 校内研究授業を年2回(6教科)実施し、他教科の取組に刺激を受けた。</p> <p>1-ウ○ 出題の質に対する教員の意識が高まり、テスト問題も思考を問うものが増え充実してきた。</p> <p>2-ア○ 校内研究授業後には教員全員参加の研究協議を必ず行って情報交換を行い、それぞれの教科での授業改善に努めた。</p> | B | <p>□授業研究会だけでなく、すべての教科で常に授業参観及び授業研究を実施し、研鑽を続ける。</p> <p>□今後とも授業法などの教員研修の機会を設け、生徒に還元できる体制の充実を図る。</p> |
| | ③学ぶことの意味を理解し、主体的に学ぶ意欲を高める | <p>【進路関係】</p> <p>◎鳥大・島大オープンキャンパスの参加者は、意識も高く事前事後の提出物もきちんとしていた。</p> <p>○もっと多くの生徒に参加してほしい。</p> <p>◎S1の鳥大オープンキャンパスも好評で大学への関心が高まった。</p> <p>○卒業生の講話は生徒、保護者とも好評である。また、S3生の話はS2保護者会で好評であった。</p> <p>△自分の将来を見通した、動機付けが弱い。</p> <p>【バイオニアホーム】</p> <p>○公立鳥取環境大学での講義、岡山操山高校のリーダー生徒との交流などバイオニアホーム育成の企画により生徒のリーダー性や学校牽引役としての意欲が向上した。</p> <p>△バイオニアホーム企画の計画が遅れたため、一部夏休みを活用できなかった。</p> | <p>③-1 学校内外の進路行事(講演会やオープンキャンパス)に積極的に参加している。</p> <p>③-2 自分の進路に対して明確なビジョンを持ち、将来活躍したい分野について説明できるとともに、意欲的に取り組むことができる。</p> <p>③-3 身近な先輩の体験談を通して、学ぶことの必要性を理解し、主体的に学んでいる。</p> <p>③-4 バイオニアホームの自覚を持ち、1年を通じて学校内外の活動に参加している。</p> <p>③-5 学校におけるバイオニアとしての自覚を持ち、自主的・主体的に学校行事に取り組む。</p> | <p>③-1 オープンキャンパスやシンポジウムについての事前調べや、事後の発表などを通して、大学の教育力を有効活用する。</p> <p>③-2 S3のチャレンジグループ活動の中で、進路決定につながるような取組を行っていく。</p> <p>③-3 上級生やOB・OGIによる講話の機会を通して、学ぶことの意味を考えさせるとともに、自主性が高まるよう刺激する。</p> <p>③-4ア 定期的に他ホームに対しての情報発信を行う。</p> <p>③-4-イ 長期休業に具体的なテーマを与えて調査研究するなど、バイオニア独自の企画に取り組む。</p> <p>③-5 バイオニアホーム企画を早期から計画・実行し、バイオニアホーム生としての自覚を高めさせる。</p> | <p>1◎ オープンキャンパス参加者は意識も高く、レポートなどの提出も良好である。事後レポートによると、9割を超す生徒が、進路意識の向上や、大学調べの意識が高まった回答していた。</p> <p>S1全員のオープンキャンパスも好評であり、大学への意識付けの機会となった。</p> <p>2◎ S3のチャレンジグループ活動の取組を活かして、進路決定・進路実現につながる取組が増えつつある。</p> <p>3◎ OB、OGIの話も好評で、生徒にとって一番身近な存在でもあり、大きな刺激となった。</p> <p>4-ア△ バイオニアホームの取組を定期的に他ホームに情報発信することは少なかった。</p> <p>4-イ○ 例年通り実施することができた。S2は3月に岡山操山高校を訪問し、とても良い刺激を受けた。今後、他のホームに広げていきたい。</p> <p>5◎ どのステージのバイオニアホームにも英字新聞を置いて興味を持たせると共に、S1では鳥取大学留学生との交流会を実施し良い刺激を受けた。S2では、ホーム日誌を利用して時事問題についてコメントを書かせ、社会に関心が向くように仕向けている。</p> <p>S3では、ホーム日誌(2冊)にチャレンジグループ活動に関わる新聞記事の要約・意見を記入させ、内容が充実してきた。</p> | A | <p>□次年度も継続する。オープンキャンパスでの経験をもとに、その後の活動がさらに活発になるよう、事後の活動を充実させる。</p> <p>□S3以前からのプレゼン的な進路指導を充実させ、進路に関する生徒の視野を広げ、早期から進路決定ができるよう工夫する。</p> |
| | 情報収集、情報発信の充実 | <p>【ホームページの運用】</p> <p><更新頻度></p> <p>△ホームページの更新が、一部の教員による。</p> <p>△ホームページのリアルタイムでの更新が少ない。</p> <p><内容></p> <p>○学校行事や部活動等、学校の取組や生徒の状況を伝える記事が増えた。</p> <p>△報告は増えてきたが、案内など事前の紹介が少ない。</p> <p>△新聞やTV等のマスメディアへ情報提供が少ない。</p> <p>【新項目】</p> <p>学校の魅力、生徒の活動状況を積極的に情報発信する。</p> <p>【中学生体験入学・中学校での高校説明会】</p> <p>○中学生体験入学では、2日間で350名の参加があった。</p> <p>○アンケートでは、83.5%が大変参考になったという意見であった。</p> <p>○中学校からの要望で、中学3年生及び2年生に学校紹介を行った。</p> | <p>①-1 学校ホームページに常に新しい情報がアップされており、見やすい。</p> <p>①-2 各職員が担当した行事の様子、部活動の成果等を速やかにホームページに掲載する。</p> <p>①-3 中学生体験入学者の参加数が400人</p> <p>①-4 中学生や地域の方が西高の情報を手に入れている。</p> | <p>①-1ア ホームページ訪問者数の増加に努める。</p> <p>①-1-イ 保護者説明会、3者保護者会、ミッタシステムなどで、情報発信する。</p> <p>①-2 ホームページ、季刊誌など、情報発信の媒体ごとに、対象(読者、閲覧者)、掲載内容、方針を明確にする。</p> <p>①-3ア 映像を活用した資料を作成し、視覚的にも倉西高の取組を伝える。</p> <p>①-3-イ 体験入学は中学生だけでなく、保護者の参加も企画する。</p> <p>①-4ア 西高の情報紙を置ける場所を増やす。</p> <p>①-4-イ 部活動の大会成績などの記録・管理して紹介するとともに、生徒の声や感想も載せて関心を高める。</p> | <p>1-ア○ 平成28年4月～29年2月の11ヵ月間のホームページの訪問者数は約18万回(平成28年3月末までのアクセス数は約22万回)。</p> <p>リアルタイムでホームページに情報発信した行事数は、前年とほぼ同じ約150件。(4～2月)(前年度同期・約160件)</p> <p>1-イ○ 震災、大雪などの自然災害の際、ミッタシステム、ホームページを活用し緊急連絡を行なった。(ミッタシステム加入率はS1が92%、S2が74%、S3が69%)</p> <p>2○ ホームページは、在校生・保護者に加え、一般(近隣の中学生や住民、同窓生など)の方々へも情報提供できるように努めた。地域・保護者対象の『季刊倉西』とPTA発行の『倉吉西高通信』は発行時期が重ならないようにし、前者は学校の教育活動を、後者はPTA活動を主に紙面を制作した。</p> <p>3-ア○ 写真や新聞記事、データを図式化して、体験入学や各中学校での説明資料とした。</p> <p>3-イ◎ 中学生体験入学参加者 中学生 356人、保護者 33人</p> <p>目標の400人には達しなかったが、参加した中学生には概ね好評であった。S3生徒代表のチャレンジグループ活動発表も好評であった。</p> <p>【アンケート結果】</p> <p>・大変参考になった85.6% どちらかと言えば参考になった13.7%</p> <p>4-ア△ 季刊誌等の設置場所があまり増えなかった。</p> <p>4-イ○ 高校総体や国民体育大会、音楽部や演劇部の発表会結果など、運動部・文化部共にできるだけ新しい情報を発信した。</p> | B | <p>□部活動などの情報更新を早くする。</p> <p>□HPの作成方法について、全教職員への説明会を年度当初に開催する。</p> <p>□ミッタシステムは、原則すべて保護者が加入するようにする。</p> <p>□各中学校で開催される高校説明会、進路学習会で、最新の活動状況を含めて魅力発信をする。</p> |

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[90%] [80%] [60%] [40%] [30%]